

2022年10月25日

日米共同統合演習へのオスプレイ使用と  
航空自衛隊千歳基地への飛来に関する談話

日本労働組合総連合会北海道連合会  
事務局長 藤盛 敏弘

防衛省は21日、自衛隊と米軍による日米共同統合演習「キーン・ソード23」を11月10日から19日に全国で実施すると発表した。

「キーン・ソード」は、ほぼ2年に一度実施する日米最大規模の実動演習であり、今回は自衛隊約2万6千人、米軍約1万人が参加し、オーストラリア軍とカナダ軍、英軍も米軍指揮下の部隊として参加する。さらに、演習全体で日米合わせて航空機約370機、空母を含む艦艇約30隻の使用を予定しており、共同訓練としては極めて異例の大規模なものを予定している。

防衛省によれば、この全国的に行われる共同演習の中では、航空自衛隊三沢基地を拠点に三沢沖などでも訓練を行い、米空軍CV22オスプレイ4機程度が航空自衛隊千歳基地に飛来する。

連合北海道は、墜落事故を繰り返したことから米軍自らが飛行停止とし、根本的な原因が解決されないまま「操縦者の訓練で問題の発展を防ぐ」と飛行再開を決めた米空軍CV22オスプレイが、日本全国で展開して行われる日米共同統合演習に参加することに反対する。

ましてや人口密集地である千歳市にあり、新千歳空港に隣接する航空自衛隊千歳基地への飛来には強く反対する。

米国本土においては連邦航空局が軍隊の飛行であっても一元管理し、米国民の安全や環境に影響を及ぼす飛行・訓練は出来ない。しかし日本においては日米地位協定により、墜落原因が特定でき無いオスプレイであっても日本国民の頭上を縦横無尽に飛び回り、10月1日から北海道内で広域に行われた日米共同訓練(レゾリュート・ドラゴン)においては、関係する11の自治体が飛行計画などの情報公開を求めたが、防衛省はこれまで同様、オスプレイの飛行時間や経路を「米軍の機密」を理由に公開しなかった。

連合北海道は、米空軍CV22オスプレイの日米共同統合演習への参加と、航空自衛隊千歳基地への飛来に強く反対する。

以上